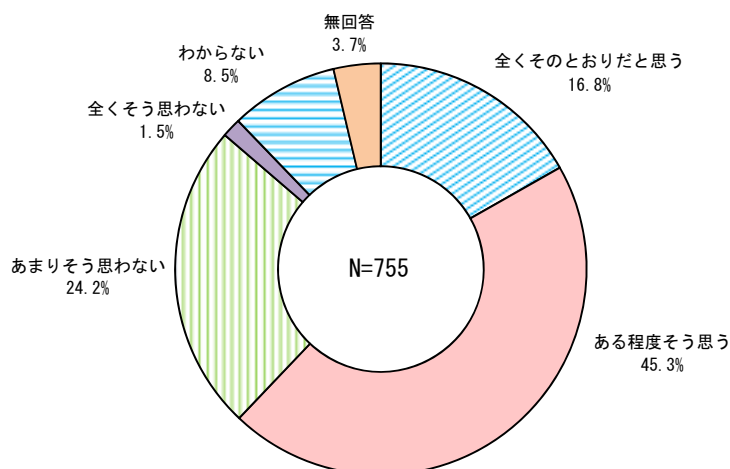


## 6 家庭及び地域の教育力について

問 28 あなたは、家庭の教育力が低下していると思いますか。

次の中から1つだけお選びください。



### 【全体】

「ある程度そう思う」(45.3%)と答えた人の割合が最も高く、次いで「あまりそう思わない」(24.2%)、「全くそのとおりだと思う」(16.8%)の順となっている。

### 【圏域別】

「ある程度そう思う」については、道北連携地域(53.5%)が最も割合が高く、次いで十勝連携地域(47.7%)となっている。「あまりそう思わない」については、道南連携地域(26.6%)が最も割合が高く、次いでオホーツク連携地域(25.8%)となっている。

### 【人口規模別】

「ある程度そう思う」については、人口10万人以上の市(50.5%)が最も割合が高く、次いで札幌市(45.6%)となっている。「あまりそう思わない」については、札幌市(25.9%)が最も割合が高く、次いで町村部(24.4%)となっている。

### 【性別】

「ある程度そう思う」については、男性45.7%、女性44.4%となっており、「あまりそう思わない」については、男性25.1%、女性24.3%となっている。

### 【年代別】

「ある程度そう思う」については、70歳以上(50.0%)が最も割合が高く、次いで30~39歳(45.9%)となっている。「あまりそう思わない」については、30~39歳(28.6%)が最も割合が高く、次いで60~69歳(27.0%)となっている。

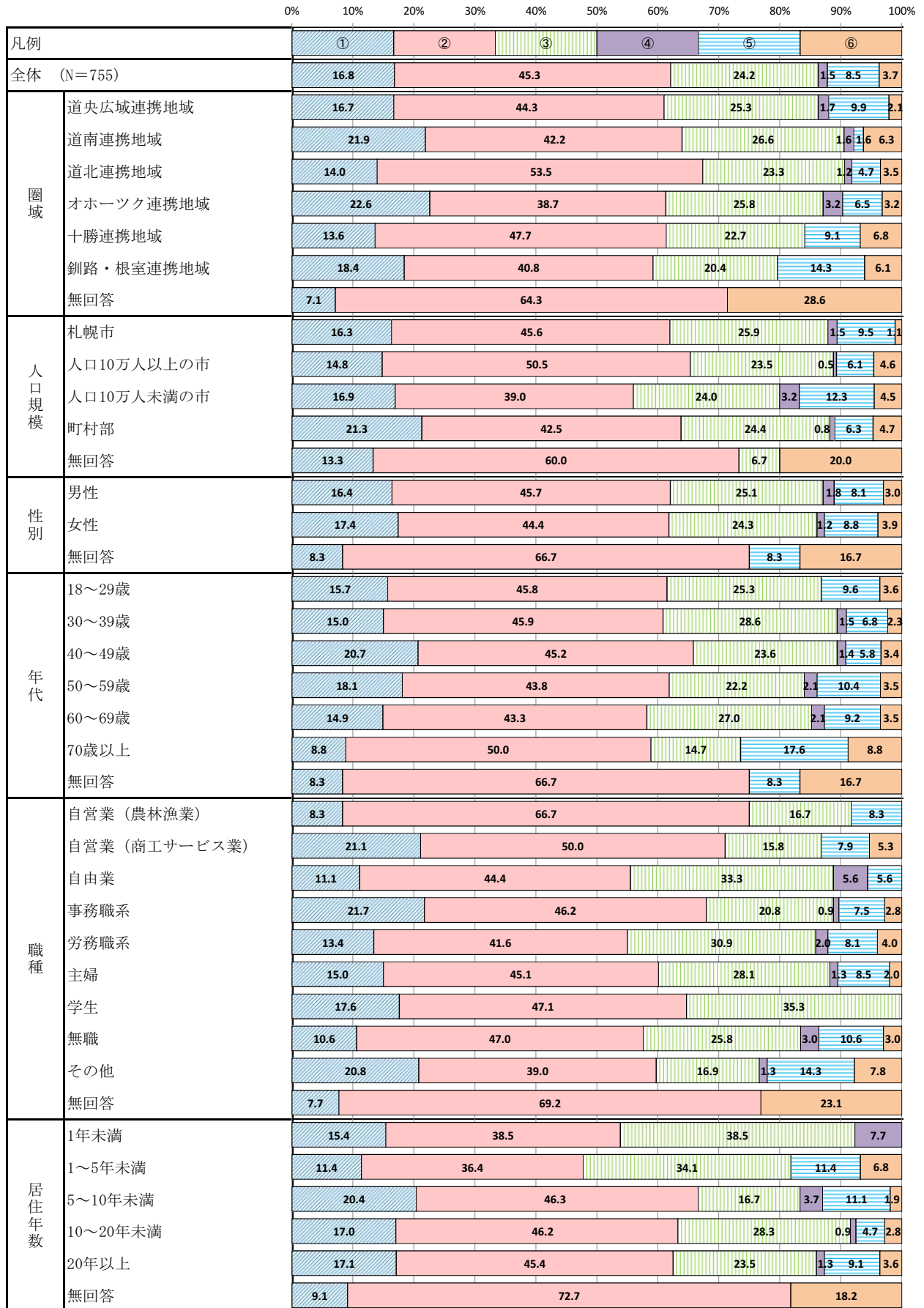
### 【職種別】

「ある程度そう思う」については、自営業(農林漁業)(66.7%)が最も割合が高く、次いで自営業(商工サービス業)(50.0%)となっている。「あまりそう思わない」については、学生(35.3%)が最も割合が高く、次いで自由業(33.3%)となっている。

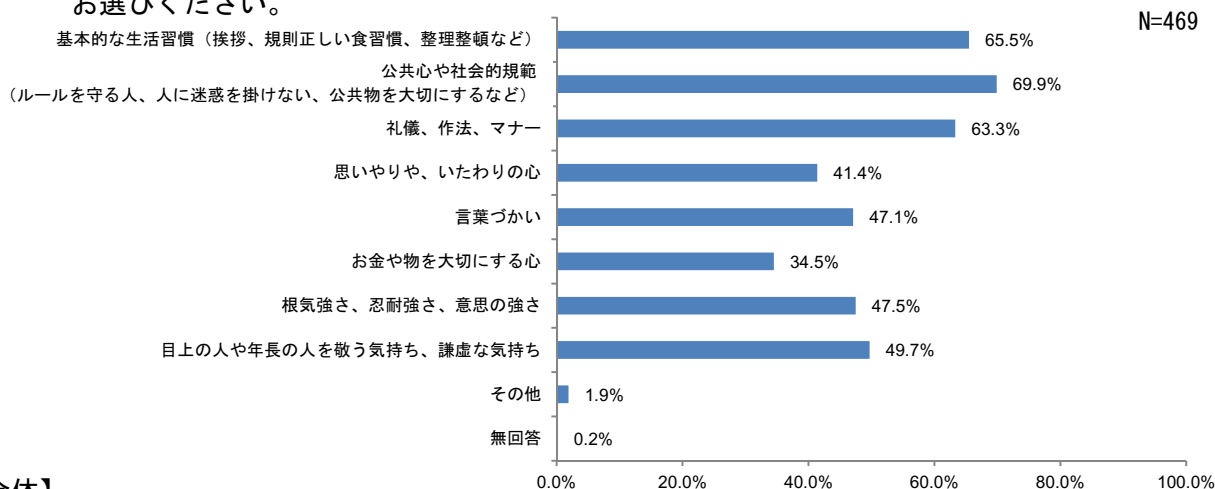
### 【居住年数別】

「ある程度そう思う」については、5~10年未満(46.3%)が最も割合が高く、次いで10~20年未満(46.2%)となっている。「あまりそう思わない」については、1年未満(38.5%)が最も割合が高く、次いで1~5年未満(34.1%)となっている。

①全くそのとおりだと思う ②ある程度そう思う ③あまりそう思わない  
④全くそう思わない ⑤わからない ⑥無回答



問 29 ※問 28 で選択肢「全くそのとおりだと思う」または「ある程度そう思う」を選んだ方のみお答えください。あなたが、低下していると思う家庭の教育力を、次の中からいくつでもお選びください。



**【全体】**

「公共心や社会的規範（ルールを守る人、人に迷惑を掛けない、公共物を大切にすることなど）」(69.9%)と答えた人の割合が最も高く、次いで「基本的な生活習慣（挨拶、規則正しい食習慣、整理整頓など）」(65.5%)、「礼儀、作法、マナー」(63.3%)の順となっている。

**【圏域別】**

「公共心や社会的規範（ルールを守る人、人に迷惑を掛けない、公共物を大切にすることなど）」については、道北連携地域（84.7%）が最も割合が高く、次いでオホーツク連携地域（73.7%）となっている。「基本的な生活習慣（挨拶、規則正しい食習慣、整理整頓など）」については、釧路・根室連携地域（75.9%）が最も割合が高く、次いで道南連携地域（70.7%）となっている。

**【人口規模別】**

「公共心や社会的規範（ルールを守る人、人に迷惑を掛けない、公共物を大切にすることなど）」については、人口 10 万人以上の市（73.6%）が最も割合が高く、次いで町村部（69.6%）となっている。「基本的な生活習慣（挨拶、規則正しい食習慣、整理整頓など）」については、町村部（70.9%）が最も割合が高く、次いで人口 10 万人以上の市（65.1%）と人口 10 万人未満の市（65.1%）となっている。

**【性別】**

「公共心や社会的規範（ルールを守る人、人に迷惑を掛けない、公共物を大切にすることなど）」については、男性 74.6%、女性 66.3%となっており、「基本的な生活習慣（挨拶、規則正しい食習慣、整理整頓など）」については、男性 68.3%、女性 63.9%となっている。

**【年代別】**

「公共心や社会的規範（ルールを守る人、人に迷惑を掛けない、公共物を大切にすることなど）」については、18～29 歳（76.5%）が最も割合が高く、次いで 50～59 歳（72.2%）となっている。「基本的な生活習慣（挨拶、規則正しい食習慣、整理整頓など）」については、70 歳以上（80.0%）が最も割合が高く、次いで 50～59 歳（72.2%）となっている。

**【職種別】**

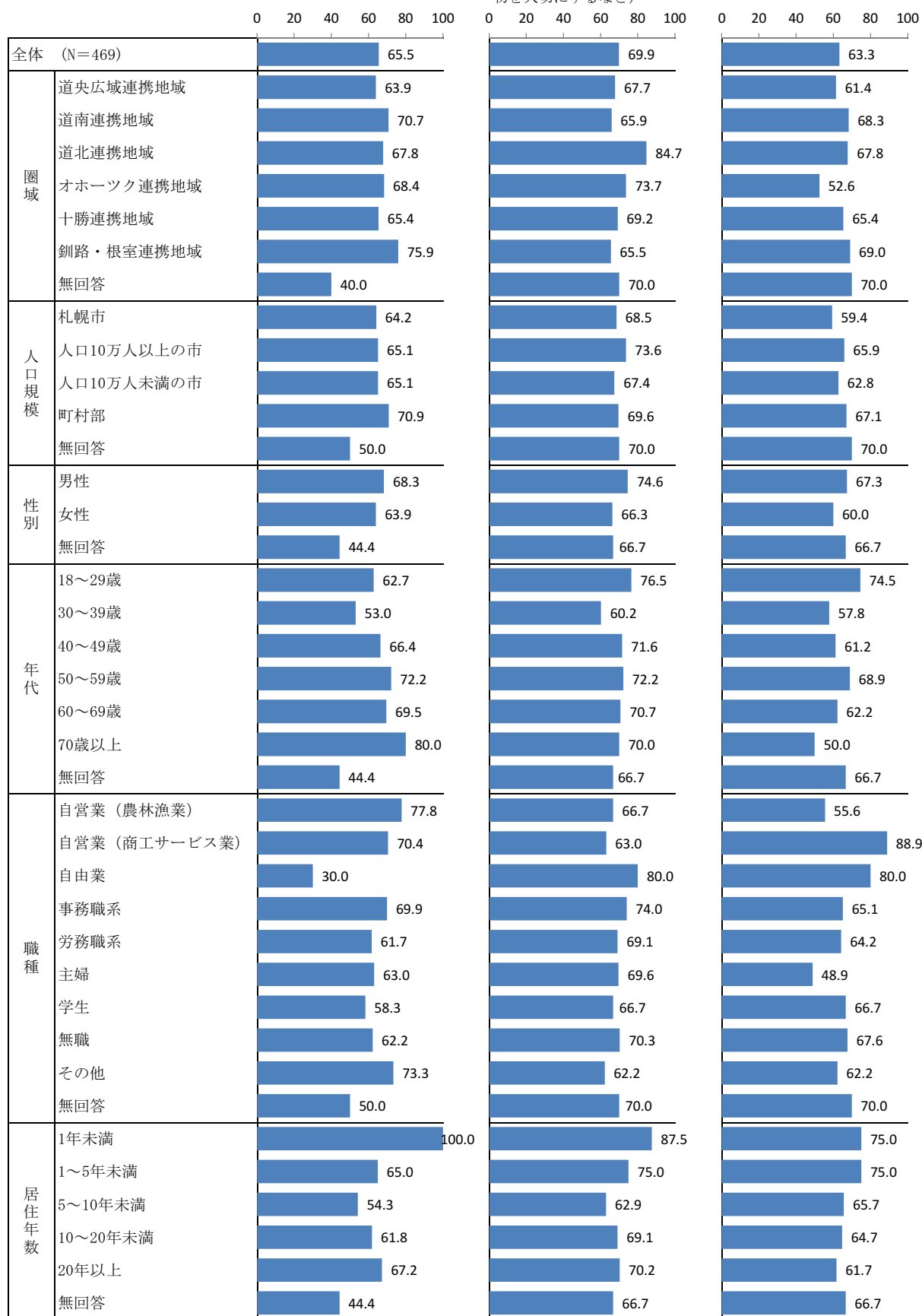
「公共心や社会的規範（ルールを守る人、人に迷惑を掛けない、公共物を大切にすることなど）」については、自由業（80.0%）が最も割合が高く、次いで事務職系（74.0%）となっている。「基本的な生活習慣（挨拶、規則正しい食習慣、整理整頓など）」については、自営業（農林漁業）（77.8%）が最も割合が高く、次いでその他（73.3%）となっている。

**【居住年数別】**

「公共心や社会的規範（ルールを守る人、人に迷惑を掛けない、公共物を大切にすることなど）」については、1 年未満（87.5%）が最も割合が高く、次いで 1～5 年未満（75.0%）となっている。「基本的な生活習慣（挨拶、規則正しい食習慣、整理整頓など）」については、1 年未満（100.0%）が最も割合が高く、次いで 20 年以上（67.2%）となっている。

基本的な生活習慣（挨拶、規則正しい食習慣、整理整頓など）

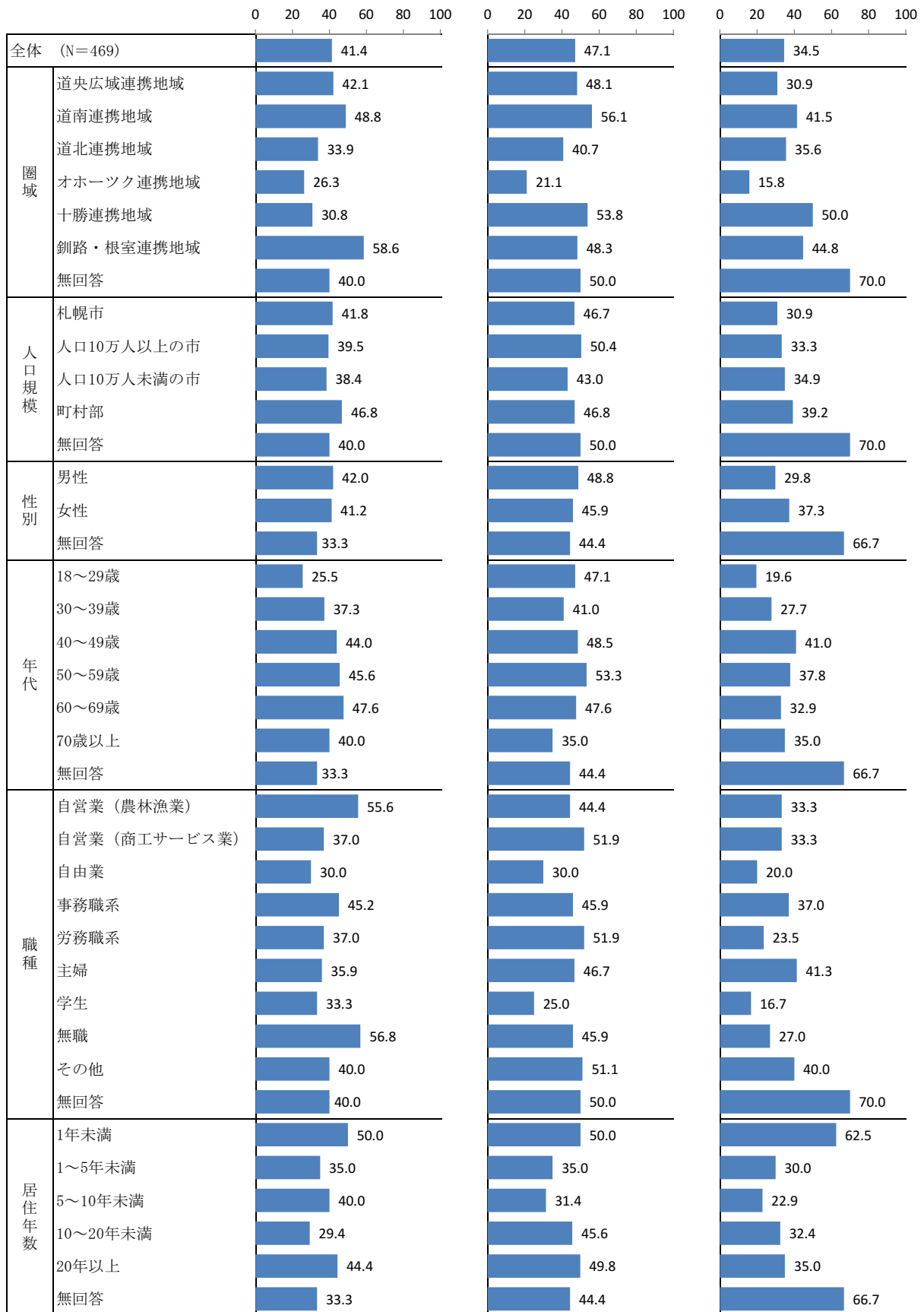
公共心や社会的規範（ルールを守る人、人に迷惑を掛けない、公共物を大切にするなど）

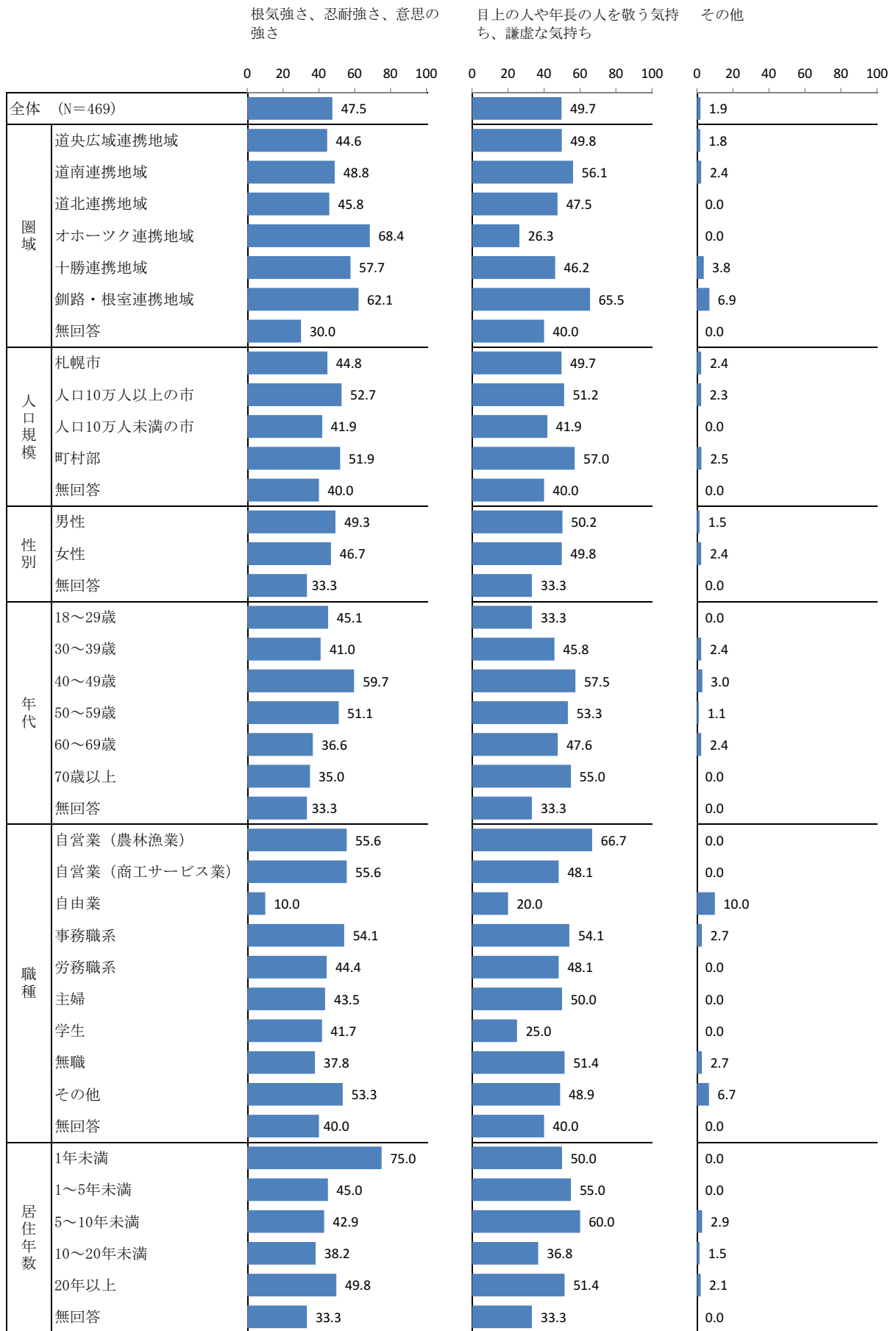


思いやりや、いたわりの心

言葉づかい

お金や物を大切にする心





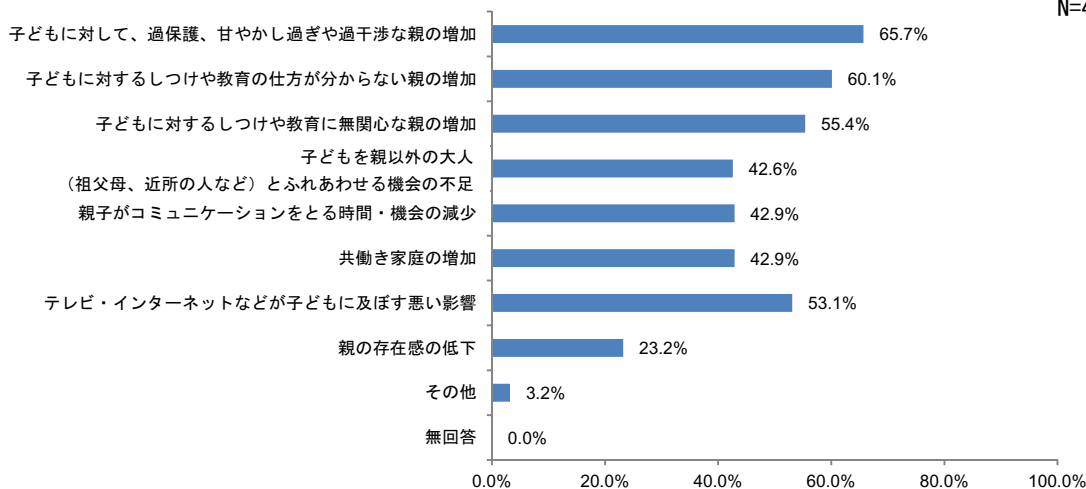
無回答

0 20 40 60 80 100

全体 (N=469)		0.2
圏域	道央広域連携地域	0.0
	道南連携地域	2.4
	道北連携地域	0.0
	オホーツク連携地域	0.0
	十勝連携地域	0.0
	釧路・根室連携地域	0.0
	無回答	0.0
	人口規模	札幌市
人口10万人以上の市		0.8
人口10万人未満の市		0.0
町村部		0.0
無回答		0.0
性別	男性	0.0
	女性	0.4
	無回答	0.0
年代	18～29歳	0.0
	30～39歳	0.0
	40～49歳	0.0
	50～59歳	0.0
	60～69歳	1.2
	70歳以上	0.0
	無回答	0.0
職種	自営業（農林漁業）	0.0
	自営業（商工サービス業）	0.0
	自由業	0.0
	事務職系	0.0
	労務職系	1.2
	主婦	0.0
	学生	0.0
	無職	0.0
	その他	0.0
	無回答	0.0
	居住年数	1年未満
1～5年未満		0.0
5～10年未満		0.0
10～20年未満		0.0
20年以上		0.3
無回答		0.0

問 30 ※問 28 で選択肢「全くそのとおりだと思う」または「ある程度そう思う」を選んだ方のみお答えください。あなたが、家庭の教育力が低下していると思う原因を、次の中からいくつでもお選びください。

N=469



【全体】

「子どもに対して、過保護、甘やかし過ぎや過干渉な親の増加」（65.7%）と答えた人の割合が最も高く、次いで「子どもに対するしつけや教育の仕方が分からない親の増加」（60.1%）、「子どもに対するしつけや教育に無関心な親の増加」（55.4%）の順となっている。

【圏域別】

「子どもに対して、過保護、甘やかし過ぎや過干渉な親の増加」については、オホーツク連携地域（89.5%）が最も割合が高く、次いで釧路・根室連携地域（75.9%）となっている。「子どもに対するしつけや教育の仕方が分からない親の増加」については、道南連携地域（78.0%）が最も割合が高く、次いでオホーツク連携地域（73.7%）となっている。

【人口規模別】

「子どもに対して、過保護、甘やかし過ぎや過干渉な親の増加」については、人口 10 万人未満の市（72.1%）が最も割合が高く、次いで町村部（68.4%）となっている。「子どもに対するしつけや教育の仕方が分からない親の増加」については、町村部（70.9%）が最も割合が高く、次いで人口 10 万人未満の市（65.1%）となっている。

【性別】

「子どもに対して、過保護、甘やかし過ぎや過干渉な親の増加」については、男性 63.9%、女性 67.1% となっており、「子どもに対するしつけや教育の仕方が分からない親の増加」については、男性 66.8%、女性 56.1%となっている。

【年代別】

「子どもに対して、過保護、甘やかし過ぎや過干渉な親の増加」については、70 歳以上（75.0%）が最も割合が高く、次いで 50～59 歳（74.4%）となっている。「子どもに対するしつけや教育の仕方が分からない親の増加」については、50～59 歳（70.0%）が最も割合が高く、次いで 60～69 歳（65.9%）となっている。

【職種別】

「子どもに対して、過保護、甘やかし過ぎや過干渉な親の増加」については、その他（73.3%）が最も割合が高く、次いで自営業（商工サービス業）（70.4%）となっている。「子どもに対するしつけや教育の仕方が分からない親の増加」については、自営業（商工サービス業）（70.0%）が最も割合が高く、次いで事務職系（68.5%）となっている。

【居住年数別】

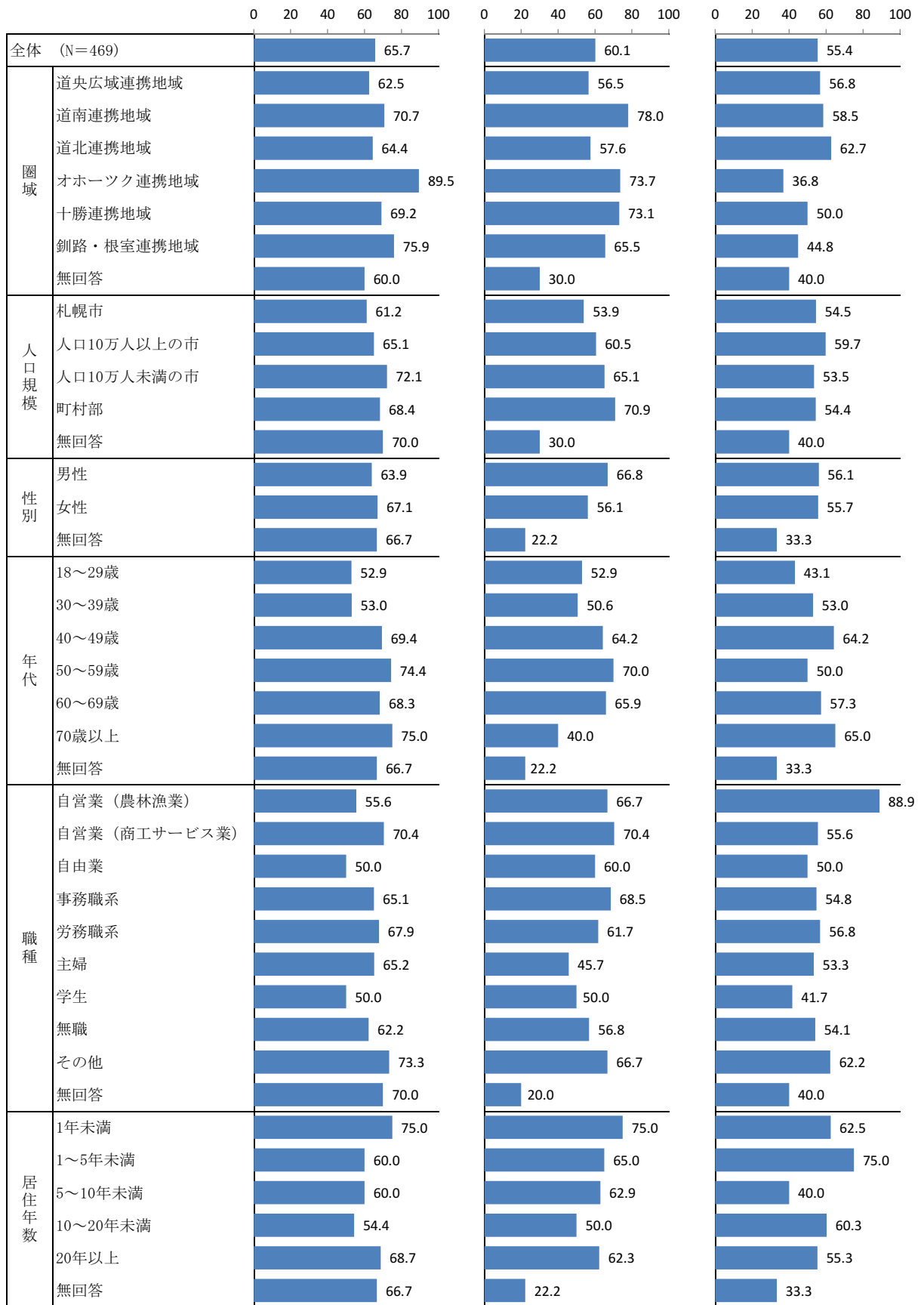
「子どもに対して、過保護、甘やかし過ぎや過干渉な親の増加」については、1 年未満（75.0%）が最も割合が高く、次いで 20 年以上（68.7%）となっている。「子どもに対するしつけや教育の仕方が分からない親の増加」については、1 年未満（75.0%）が最も割合が高く、次いで 1～5 年未満（65.0%）となっている。



子どもに対して、過保護、甘やかし過ぎや過干渉な親の増加

子どもに対するしつけや教育の仕方が分からない親の増加

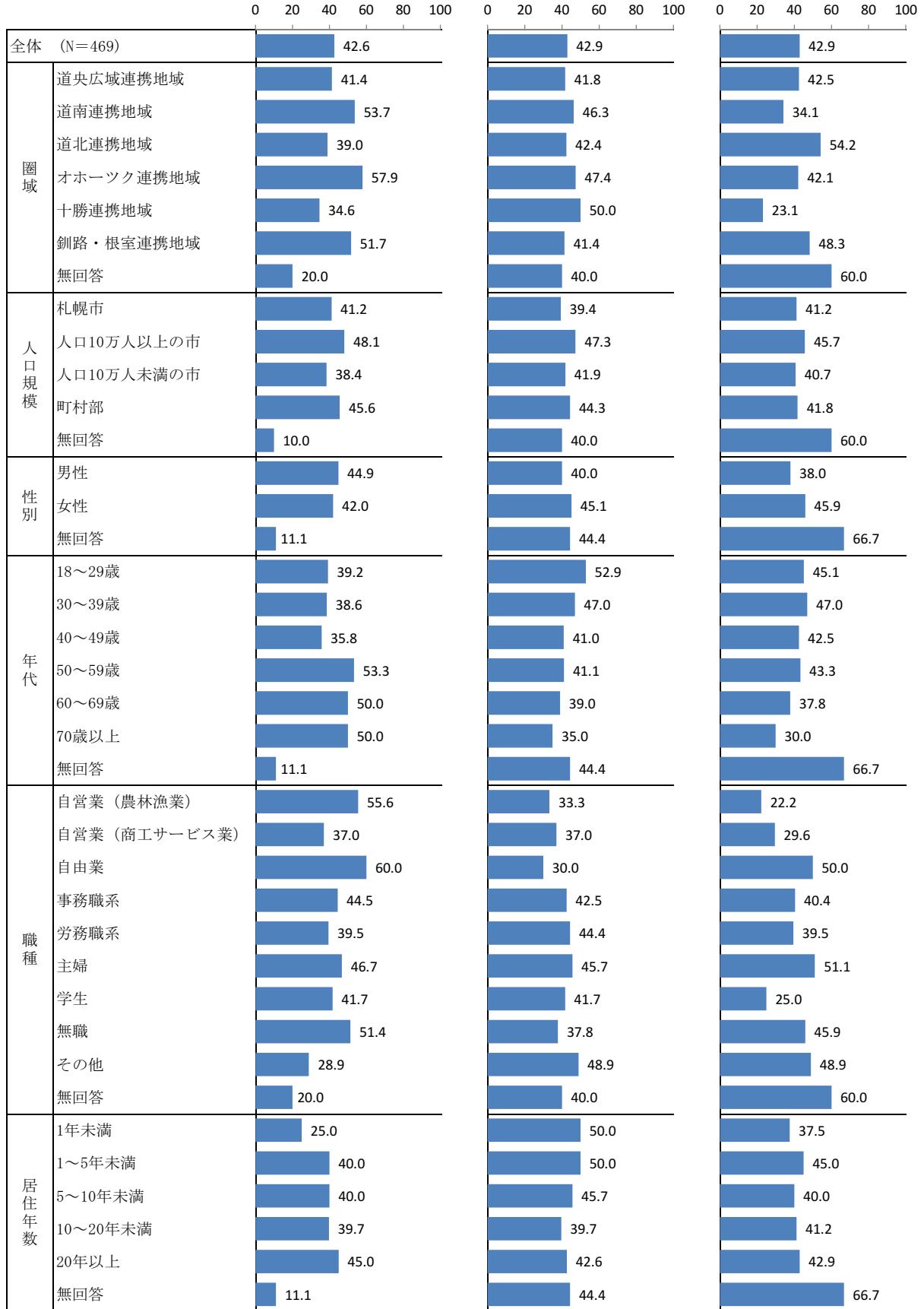
子どもに対するしつけや教育に無関心な親の増加



子どもを親以外の大人（祖父母、近所の人など）とふれあわせる機会の不足

親子がコミュニケーションをとる時間・機会の減少

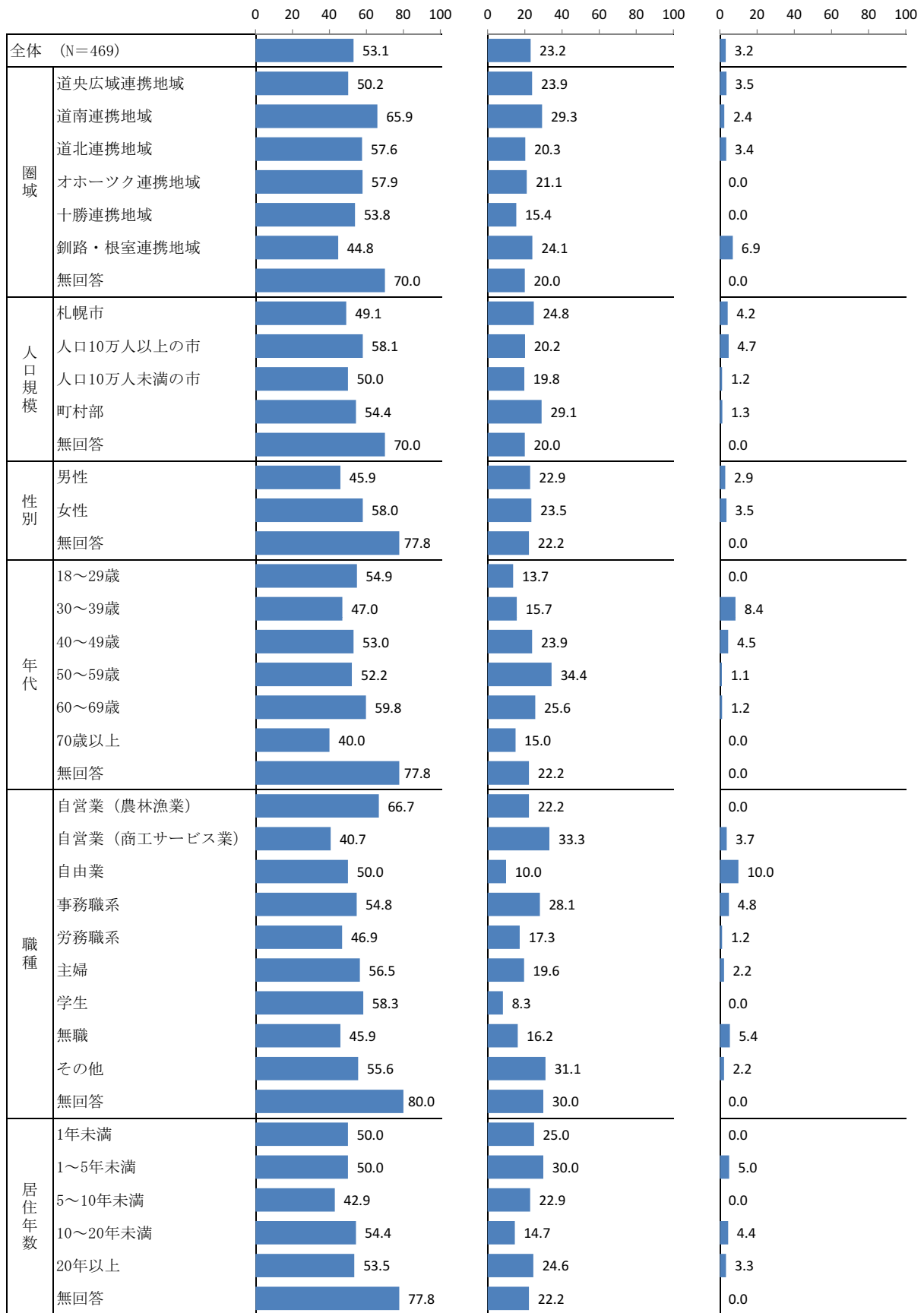
共働き家庭の増加



テレビ・インターネットなどが子どもに及ぼす悪い影響

親の存在感の低下

その他

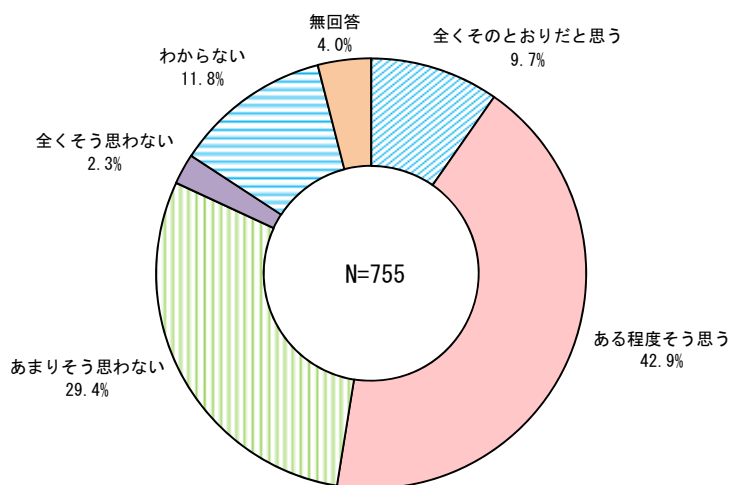


無回答

0 20 40 60 80 100

全体 (N=469)		0.0
圏域	道央広域連携地域	0.0
	道南連携地域	0.0
	道北連携地域	0.0
	オホーツク連携地域	0.0
	十勝連携地域	0.0
	釧路・根室連携地域	0.0
	無回答	0.0
	人口規模	札幌市
人口10万人以上の市		0.0
人口10万人未満の市		0.0
町村部		0.0
無回答		0.0
性別	男性	0.0
	女性	0.0
	無回答	0.0
年代	18～29歳	0.0
	30～39歳	0.0
	40～49歳	0.0
	50～59歳	0.0
	60～69歳	0.0
	70歳以上	0.0
	無回答	0.0
	職種	自営業（農林漁業）
自営業（商工サービス業）		0.0
自由業		0.0
事務職系		0.0
労務職系		0.0
主婦		0.0
学生		0.0
無職		0.0
その他		0.0
無回答		0.0
居住年数		1年未満
	1～5年未満	0.0
	5～10年未満	0.0
	10～20年未満	0.0
	20年以上	0.0
	無回答	0.0

問 31 あなたは、地域の教育力が低下していると思いますか。  
次の中から1つだけお選びください。



**【全体】**

「ある程度そう思う」(42.9%)と答えた人の割合が最も高く、次いで「あまりそう思わない」(29.4%)、「わからない」(11.8%)の順となっている。

**【圏域別】**

「ある程度そう思う」については、オホーツク連携地域(54.8%)が最も割合が高く、次いで道北連携地域(48.8%)となっている。「あまりそう思わない」については、釧路・根室連携地域(38.8%)が最も割合が高く、次いで十勝連携地域(38.6%)となっている。

**【人口規模別】**

「ある程度そう思う」については、人口10万人以上の市(47.4%)が最も割合が高く、次いで札幌市(46.4%)となっている。「あまりそう思わない」については、町村部(37.0%)が最も割合が高く、次いで人口10万人以上の市(29.6%)となっている。

**【性別】**

「ある程度そう思う」については、男性42.7%、女性42.9%となっており、「あまりそう思わない」については、男性30.1%、女性29.2%となっている。

**【年代別】**

「ある程度そう思う」については、30～39歳(48.9%)が最も割合が高く、次いで40～49歳(44.2%)となっている。「あまりそう思わない」については、18～29歳(31.3%)が最も割合が高く、次いで50～59歳(30.6%)となっている。

**【職種別】**

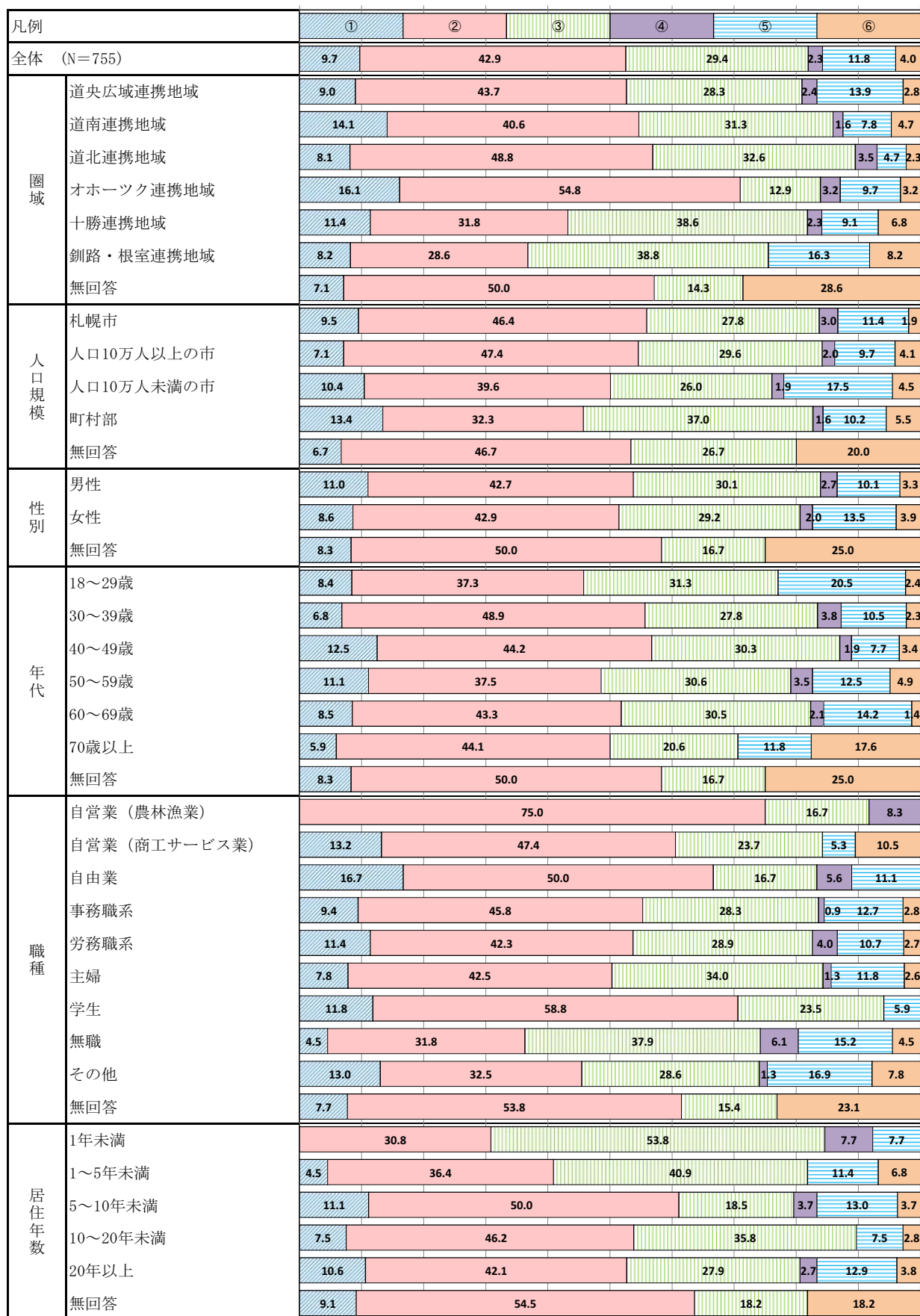
「ある程度そう思う」については、自営業(農林漁業)(75.0%)が最も割合が高く、次いで学生(58.8%)となっている。「あまりそう思わない」については、無職(37.9%)が最も割合が高く、次いで主婦(34.0%)となっている。

**【居住年数別】**

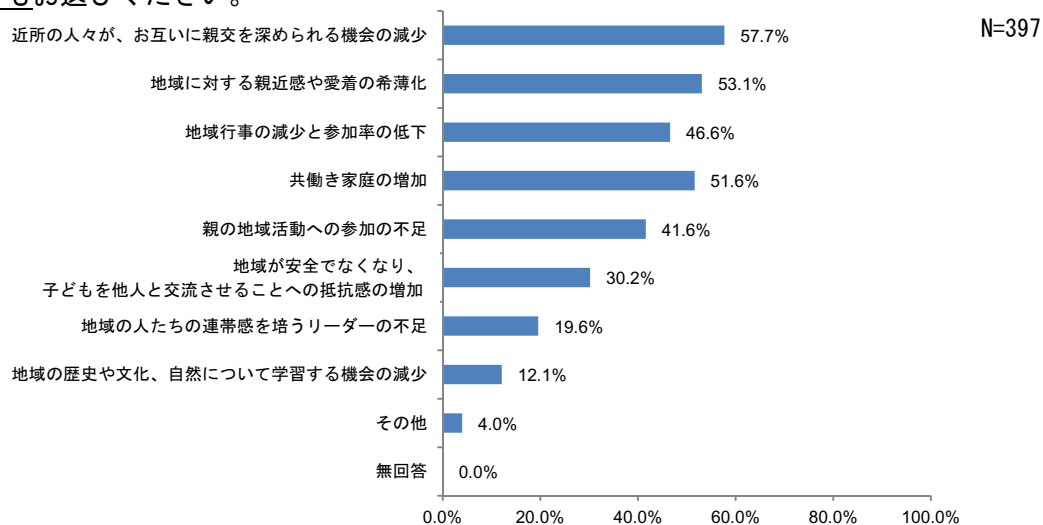
「ある程度そう思う」については、5～10年未満(50.0%)が最も割合が高く、次いで10～20年未満(46.2%)となっている。「あまりそう思わない」については、1年未満(53.8%)が最も割合が高く、次いで1～5年未満(40.9%)となっている。

①全くそのとおりだと思う ②ある程度そう思う ③あまりそう思わない  
④全くそう思わない ⑤わからない ⑥無回答

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



問 32 ※問 31 で選択肢「全くそのとおりだと思う」または「ある程度そう思う」を選んだ方のみお答えください。あなたが、地域の教育力が低下していると思う原因を、次の中からいくつかでもお選びください。



**【全体】**

「近所の人々が、お互いに親交を深められる機会の減少」(57.7%)と答えた人の割合が最も高く、次いで「地域に対する親近感や愛着の希薄化」(53.1%)、「共働き家庭の増加」(51.6%)の順となっている。

**【圏域別】**

「近所の人々が、お互いに親交を深められる機会の減少」については、十勝連携地域(68.4%)が最も割合が高く、次いで釧路・根室連携地域(66.7%)となっている。「地域に対する親近感や愛着の希薄化」については、道南連携地域(65.7%)が最も割合が高く、次いで釧路・根室連携地域(61.1%)となっている。

**【人口規模別】**

「近所の人々が、お互いに親交を深められる機会の減少」については、人口10万人以上の市(61.7%)が最も割合が高く、次いで人口10万人未満の市(59.7%)となっている。「地域に対する親近感や愛着の希薄化」については、町村部(62.1%)が最も割合が高く、次いで人口10万人以上の市(54.2%)となっている。

**【性別】**

「近所の人々が、お互いに親交を深められる機会の減少」については、男性58.9%、女性58.1%となっており、「地域に対する親近感や愛着の希薄化」については、男性56.7%、女性50.5%となっている。

**【年代別】**

「近所の人々が、お互いに親交を深められる機会の減少」については、60～69歳(68.5%)が最も割合が高く、次いで70歳以上(64.7%)となっている。「地域に対する親近感や愛着の希薄化」については、70歳以上(64.7%)が最も割合が高く、次いで60～69歳(63.0%)となっている。

**【職種別】**

「近所の人々が、お互いに親交を深められる機会の減少」については、自由業(66.7%)と学生(66.7%)と無職(66.7%)が最も割合が高く、次いで主婦(62.3%)となっている。「地域に対する親近感や愛着の希薄化」については、自営業(農林漁業)(88.9%)が最も割合が高く、次いで自由業(66.7%)となっている。

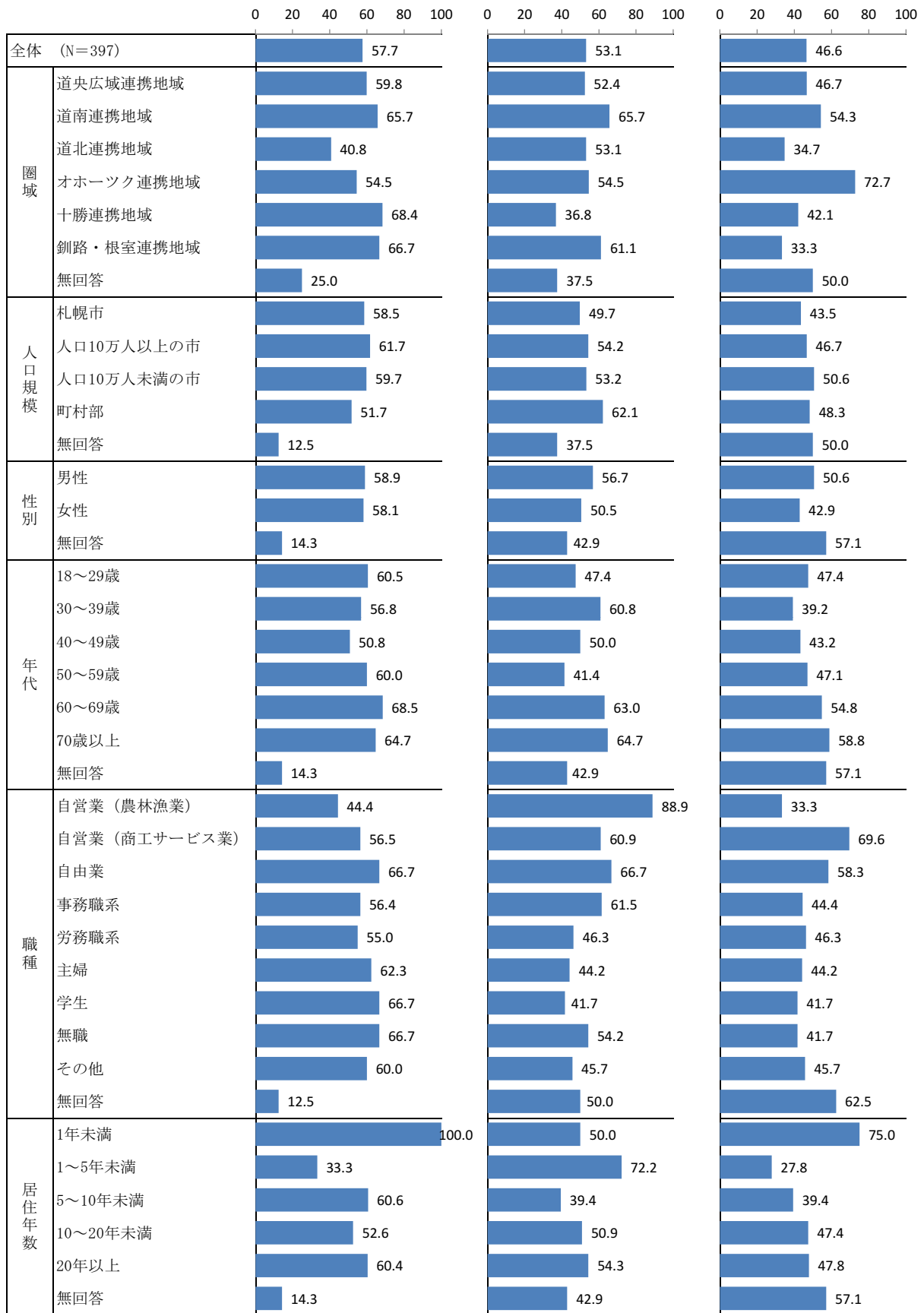
**【居住年数別】**

「近所の人々が、お互いに親交を深められる機会の減少」については、1年未満(100.0%)が最も割合が高く、次いで5～10年未満(60.6%)となっている。「地域に対する親近感や愛着の希薄化」については、1～5年未満(72.2%)が最も割合が高く、次いで20年以上(54.3%)となっている。

近所の人々が、お互いに親交を  
深められる機会の減少

地域に対する親近感や愛着の  
希薄化

地域行事の減少と参加率の  
低下

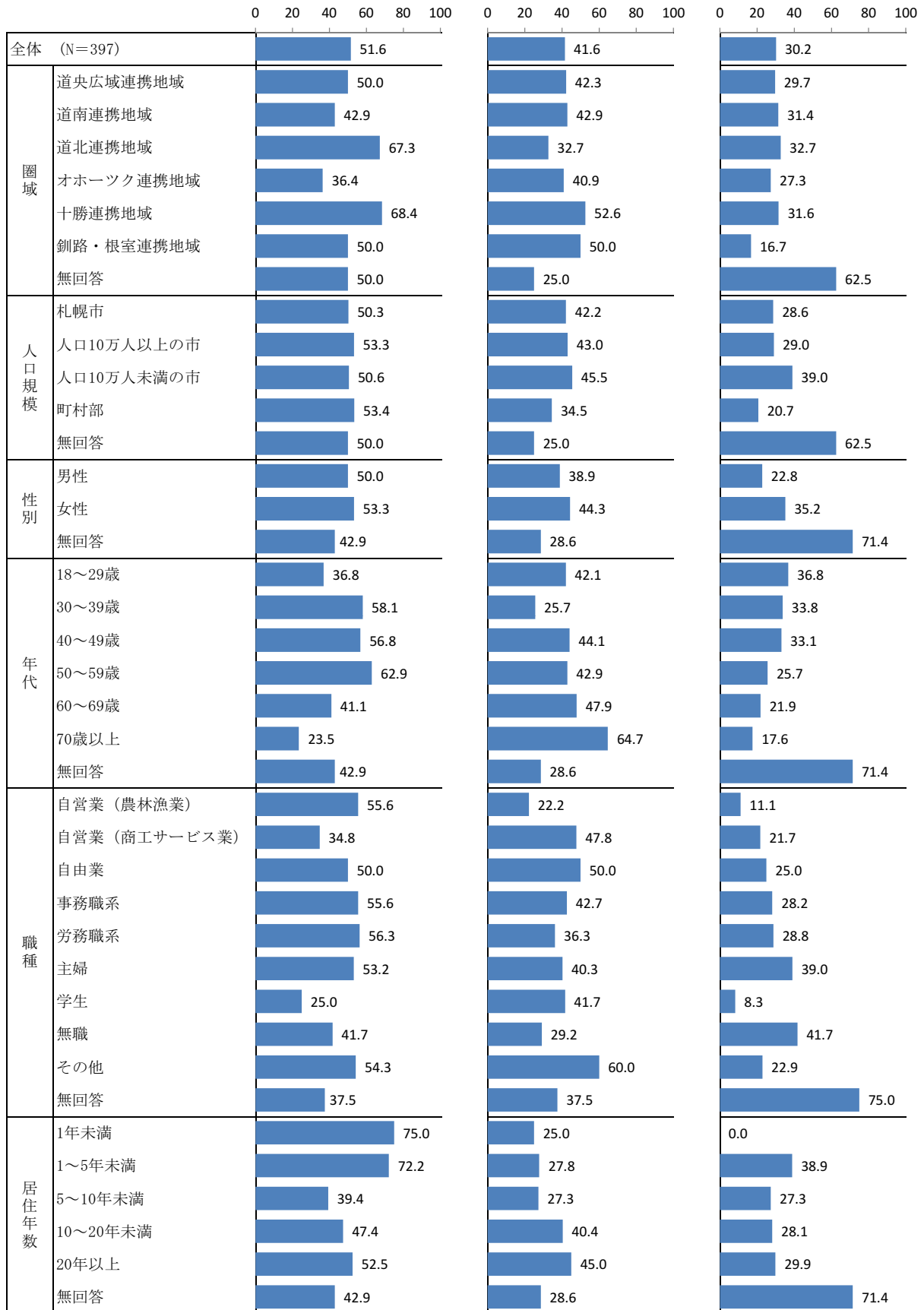




共働き家庭の増加

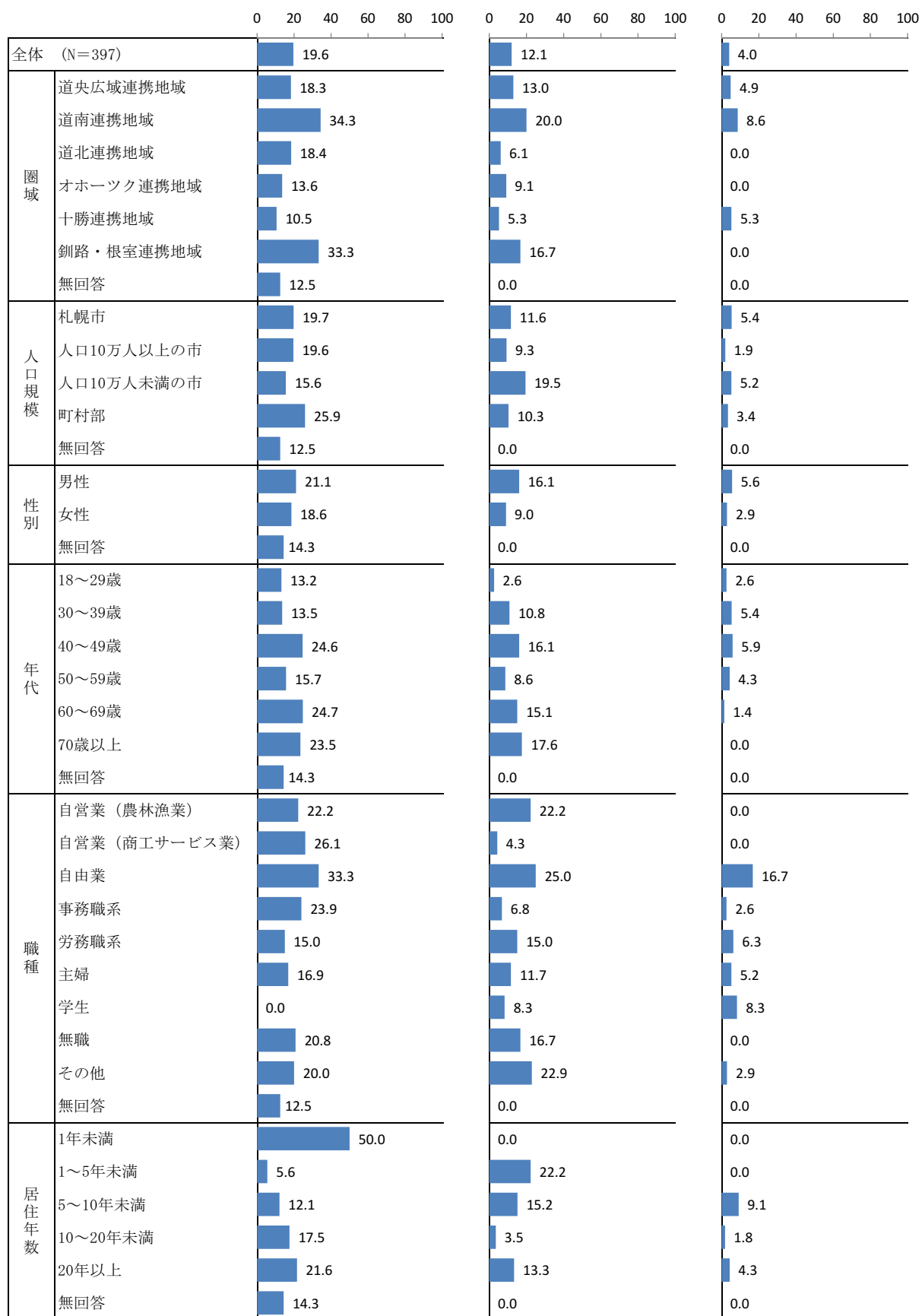
親の地域活動への参加の不足

地域が安全でなくなり、子どもを他人と交流させることへの抵抗感の増加



地域の人たちの連帯感を培う  
リーダーの不足

地域の歴史や文化、自然について学習する機会の減少  
その他



無回答

0 20 40 60 80 100

全体 (N=397)		0.0
圏域	道央広域連携地域	0.0
	道南連携地域	0.0
	道北連携地域	0.0
	オホーツク連携地域	0.0
	十勝連携地域	0.0
	釧路・根室連携地域	0.0
	無回答	0.0
	人口規模	札幌市
人口10万人以上の市		0.0
人口10万人未満の市		0.0
町村部		0.0
性別	男性	0.0
	女性	0.0
	無回答	0.0
年代	18～29歳	0.0
	30～39歳	0.0
	40～49歳	0.0
	50～59歳	0.0
	60～69歳	0.0
	70歳以上	0.0
	無回答	0.0
職種	自営業（農林漁業）	0.0
	自営業（商工サービス業）	0.0
	自由業	0.0
	事務職系	0.0
	労務職系	0.0
	主婦	0.0
	学生	0.0
	無職	0.0
	その他	0.0
	無回答	0.0
居住年数	1年未満	0.0
	1～5年未満	0.0
	5～10年未満	0.0
	10～20年未満	0.0
	20年以上	0.0
	無回答	0.0

## ■「家庭及び地域の教育力について」の調査を終えて

---

家庭の教育力の低下に関する認識では、「全くそのとおりだと思う」、「ある程度そう思う」と答えた方を合わせると 62.1%と、前回調査結果(平成 22 年度 84.0%)に比べ 21.9 ポイント低くなり改善されているが、依然として 6 割以上の方は家庭の教育力が低下していると感じている。

家庭の教育力が低下していると思う原因について、「子どもに対して、過保護、甘やかし過ぎや過干渉な親の増加」、「子どもに対するしつけや教育の仕方が分からない親の増加」と答えた方の割合が、それぞれの項目で 6 割を超えている。

また、地域の教育力の低下に関する認識では、「全くそのとおりだと思う」「ある程度そう思う」と答えた方を合わせると 52.6%と、前回調査結果(平成 22 年度 64.6%)に比べ 12 ポイント低くなっているが、5 割以上の方は地域の教育力が低下していると感じている。

地域の教育力が低下していると思う原因について、「近所の人々が、お互いに親交を深められる機会の減少」、「地域に対する親近感や愛着の希薄化」、「共働き家族の増加」と答えた方の割合が、それぞれの項目で 5 割を超えている。

こうした調査結果を踏まえ、新たな北海道教育推進計画(計画期間平成 30~39 年度)の策定において反映させるとともに、今後の家庭教育への支援や地域の教育力の向上に向けた施策を計画的に推進していく。

(教育庁生涯学習推進局生涯学習課)